令和７年度　春日部市立大沼中学校　第４９回入学式　式辞

校長　田村　嘉則

暖かな光りが街を包み始めた春の佳き日に、ご来賓として、日頃より本校教育活動に御理解とご協力を賜っております、地域の方々の御臨席を賜り、春日部市立大沼中学校第４９回入学式を挙行できますことに、本校教職員を代表してお礼を申し上げます。

２０３名の新入生諸君、大沼中学校への入学、おめでとうございます。桜の花もみなさんの入学を待っていてくれましたね。

保護者の皆様、本日はお子様の中学校へのご入学、誠におめでとうございます。保護者の皆様には、今日から本校教職員が力を合わせ、３年間、大切なお子様を責任を持ってお預かりすることをお約束いたします。私は、お子様が中学校へ入学する今日という日は、第２の誕生日と考えております。中学校の３年間は、身体も心も大きく成長し、揺れ動く時期でもあります。３年後にお子様がそれぞれの人生の第一歩を歩みだすための準備の始まりとなる記念すべき日です。子供のより良き成長を支えるためには、保護者と学校が同じ方向を向き、同じ方向で力を合わせることが必要です。本校の教職員は、本気で生徒と向き合っていく所存です。ぜひ、積極的に学校の教育活動にご理解をいただき、ご協力、ご参加をお願いいたします。また、私立学校と違い、公立学校の強みは、地域を持つことだと考えます。地域の皆様方には、これまで同様、本校の教育活動にお力をお貸しいただきたいと存じます。また、生徒が社会に出るための経験の場としてもお力をお貸しいただきますようお願い申し上げます。一方、本校からは、生徒を積極的に地域に送り出します。御高齢の地域住民の方々に元気を届けます。万一の災害時には、中学生に力仕事を担わせます。どうぞよろしくお願いします。

さて、新入生の生徒諸君、今日から大沼中学校の生徒となります。そこで２つ話をします。１つ目です。本校の学校教育目標は、「心身共に健康で社会に有為な人づくり」です。社会に有為な人とは、社会に貢献できる、社会の役に立つという意味です。そのためには、この３年間で、自ら課題を見つけ、考え、仲間と力を合わせながら課題を解決する実行力をつけなければなりません。保護者や先生方に言われなくても、時間を意識して行動したり、自分から気持ちの良いあいさつをしたり、そして何より、自ら進んで学ぶことのできる人になることが大切です。学ぶことに終わりはありません。本当の学びは、最後の学校を卒業してから始まるのです。その時になっ

て、何を学ぶべきか、どうやって学んだらよいのかが分からない人間は、そこで人としての成長が止まってしまいます。私達はより良く生きるために一生学び続けるのです。それは、決して誰かにやらされるものではなく、自ら進んで学ぶのです。そのための土台を作るのが、義務教育の９年間なのです。やらされて勉強をしているうちは、生きてはたらく学力は決して身に付きません。やらされる勉強を３時間するより、自ら進んで１時間の勉強をしなさい。

２つ目です。君達は、世界にたった一人しかいない、かけがえのない存在だということです。そのかけがえのない命、かけがえのない存在を、保護者の皆様が大切に大切にこの12年間育んできてくださったのです。その大切な命や存在を仲間とお互いに大切にしなさい。暴力をふるったり、心ない悪口を言って相手の心を傷つけたり、SNSでトラブルを起こしたり…、その被害者にあなたがもしなったら、どんなに辛く苦しい思いをするか、そしてあなたを愛してくれているご家庭の方々はどんな気持ちになるかを考えてみてください。自分が認められ、大切にされたいのならば、同時に相手を認め、大切にすることを忘れてはなりません。また中学生は、自分の力では解決できない事に出会うことも少なくありません。そんな時は遠慮はいりません。決して一人で抱え込まずに、友達や先生に、また相談員に相談してください。大沼中学校で過ごす３年間は、運動でかく汗はもちろん、頭や心の汗もたくさんかきます。その１つ１つの出来事がすべて、君たち一人一人、かけがえのない存在が自分色の光を放つことにつながるのです。さあ、新入生諸君、大沼中学校で思い切り汗をかこう。

この学び舎で、今、新しいあなたがはじまるのです。

令和７年４月８日　春日部市立大沼中学校長